

## 1253

固相法による血中 $\alpha$ -fetoproteinの測定伊東久雄, 飯尾 篤, 阿多まり子, 最上 博,  
藤井 崇, 八木 完, 稲月伸一, 浜本 研  
(愛媛大, 放)

Alpha-fetoprotein (AFP) の測定は、主として原発性肝癌の診断、経過観察上、不可欠であり、広く日常診断に利用されている。

今回我々は、最近開発された、抗 AFP 抗体が予め結合させてあるプラスチックビーズを利用する RIA 法によるキットを入手する機会を得、基礎的ならびに若干の臨床的検討を行ったので、その結果を報告する。

本キットは従来のキットに比べ、被検血清が 20  $\mu$ l と少量でよいこと、測定範囲が約 10 倍と広く、従って血清を希釈せずに比較的高値まで測定可能なこと、更にインキュベーション時間が合計 3 時間と短いなどの利点を持っている。

本キットについて、測定条件、再現性、他キットによる測定値との相関性を検討すると共に、原発性肝癌を始めとする各種疾患患者の血清中 AFP の測定を行なったので、その成績を報告する。

## 2201

前立腺癌の抗男性ホルモン療法における  
血中 P A P および T, E<sub>2</sub>, P R L の変動について  
片寄功一 (福島医大, 泌) 樋口義典 (同, 放)

P A P は 栄研 R I A キットを用い高感度測定法にて行った。正常群、前立腺肥大症群では 2ng/ml 以下、未治療前立腺癌群 (Stage B 以上) ではすべて 3 ng/ml 以上であった。その他の疾患群は 2ng/ml 以下、肥大症でカテーテル留置等の局所の刺激、圧迫を有するものは 2~3 ng/ml の値を示した。

去勢術と女性ホルモン投与による治療により反応のみられたものは、P A P 値は下降し早いもので 1 週間以内に正常域にまで下降した。また P A P 値下降にともない、臨床症状も改善がみられた。

また上記対象にて血中 T, E<sub>2</sub>, P R L を R I A により測定した。各群間で有意の差はみられなかった。前立腺癌群で抗男性ホルモン治療により T, E<sub>2</sub> は著明に下降したが P R L は上昇した。これら各ホルモンの意義についても若干の検討を加え報告する。

## 2202

Dinabot (NEN) P A P · R I A の使用経験

東 陽一郎, 三木 誠, 大石幸彦, 木戸 晃,  
柳沢宗利 (東京慈恵会医科大学泌尿器科)

## 近藤直弥

今回 NEN (New England Nuclear) 社の P A P (前立腺性酸フォスファターゼ) 測定用 R I A kit を使用する機会を得たので、その基礎的、臨床的検討を行なった。本 kit ではその測定手技に長時間法と短時間法があるが、主に長時間法を実施した。

3 種の異なる血清濃度での within assay の CV % は、それぞれ 3.0, 6.0, 4.0 % と良好であり、P A P 高濃度の患者血清 3 種類をえらび、16 倍まで希釈して行なった希釈試験でも、全て希釈倍率に応じた値が得られた。

本 kit の正常値は 3.3 ng/ml 以下であり、現在迄に前立腺癌 8 症例を含む、各種疾患 60 症例、100 検体について血清 P A P 値を測定した。それらの成績はほぼ満足できる結果であったので、我々の開発した P A P · R I A (EIKEN) とも比較して報告する。

## 2203

Elastase 1 R I A Kit の臨床的意義について

古賀一誠, 藤井恭一 (国立病院医療センター, 於)

最近、R I A 法を用いて、Elastase 1 が測定できる様になり、膵疾患などに対して利用されている。我々は基礎的、臨床的検討を行い、既に日医放総会にて発表した。

今回、特に膵癌に対して、臨床的検討を行った。

膵癌について CT 検査成績と CEA 値を加えて、Elastase 1 値との比較検討を行った。

膵癌においては、膵頭部癌、膵癌の再発又、膵への転移癌に対しては、かなり高い値を示した。又一部末期癌に対しては、やや低い値を示す傾向が認められたが、膵癌の検索には非常に有用であると思われる。